

口頭発表練習への LTD 話し合い学習法導入に対する学習者の意識

—初年次学部留学生の日本語授業での実践から—

阿部 美恵子（関西学院大学日本語教育センター）

本稿は、初年次学部留学生の日本語授業に LTD 話し合い学習法を導入した実践について報告し、その効果を学習者へのアンケート結果を元に検証したものである。具体的には、新聞記事に関する口頭発表の発表準備に LTD 話し合い学習法を取り入れた。アンケート結果の分析から、LTD 話し合い学習法を導入した口頭発表練習によって、学習者は(1)口頭発表能力の向上、(2)レジュメ作成能力の向上、(3)課題文の深い理解、(4)発表準備の助けになること、(5)教師以外の他者からの学びへの気づき、という効果を感じていたことがわかった。これらの結果から、LTD 話し合い学習法を口頭発表につなげるという LTD 基盤型授業モデルに、一定の効果が見られることを明らかにした。

キーワード：LTD 話し合い学習法、LTD 基盤型授業モデル、協同学習、口頭発表能力

1. はじめに

学部留学生には、「学術習得のために必要な口頭発表力」と「学内外で必要な交渉の場での対応説得技術の習得」という2つの「話す」能力が求められており（下瀬川 1994）、前者の力をつけるために、学部留学生の日本語クラスでは発表練習が多く行われている。発表練習では4年間の学部での学びを見据え、他者が執筆した新聞記事や論文等（以下、課題文）をもとに、別の観点からの知識や自分の意見を加えて発表することが多い。

しかし、口頭発表のために行う発表準備の段階で、課題文の理解不足、関連資料の収集力の問題、レジュメ作成時の構成ができないこと、レジュメへの課題文からの抜き書きといった多くの問題を抱えている。

これらの問題点を解決するための方法として、協同学習の考えを取り入れグループワークを行ったが、特に初年次留学生は協同することに慣れていないことも多く、うまくいかなかった。また、教員からの学びを志向する学習者も多く、グループワークによる他の学習者からの学びに対して懐疑的な学習者も多かった。

そこで、新たな試みとして、LTD 話し合い学習法（以下、LTD）を口頭発表練習の発表準備段階で取り入れた。本稿では、まず LTD について説明し（§2）、LTD の実践について紹介する（§3）。その上で本実践の授業概要と（§4）、LTD を導入した口頭発表練

習の方法について述べ（§5）、新しい取り組みについての学習者の反応をアンケート結果から分析する（§6）。最後に、アンケート結果を踏まえ、LTD を口頭発表につなげるという「LTD 基盤型授業モデル」の効果と意義について検討したい（§7）。

2. LTD 話し合い学習法

LTD とは Learning through Discussion の略語で、ディスカッションを通じて学ぶ技法である。日本では、LTD 話し合い学習法と呼ばれている。課題文の予習とミーティング（仲間との対話）からなる協同学習の技法で、課題文の深い読解、基本的な学習スキルの育成、批判的思考力の育成、自己学習能力の育成を目的とするものである（安永・須藤 2014）。ディスカッション部分のみが LTD であると誤解されることがあるが、そうではなく、安永・須藤（同）が予習なしでミーティングを行っても LTD とは言えないと述べているように、事前の予習とミーティングの双方が非常に重要である。

安永・須藤（同）の LTD の過程プランをまとめたものが表 1 である。

表 1 LTD 過程プラン

| 段階 | ステップ | 予習 | ミーティング | |
|------|--------|----------|----------|-------|
| | | 活動内容 | 活動内容 | 配分時間 |
| 導入 | step 1 | 全体像の把握 | 雰囲気づくり | 3 分 |
| 理解 | step 2 | 言葉の理解 | 言葉の理解 | 3 分 |
| | step 3 | 主張の理解 | 主張の理解 | 6 分 |
| | step 4 | 話題の理解 | 話題の理解 | 1 2 分 |
| 関連づけ | step 5 | 知識との関連づけ | 知識との関連づけ | 1 5 分 |
| | step 6 | 自己との関連づけ | 自己との関連づけ | 1 2 分 |
| 評価 | step 7 | 課題文の評価 | 課題文の評価 | 3 分 |
| | step 8 | リハーサル | ふり返り | 6 分 |

予習とミーティングは step 2～7 まで同じ手順で進める。つまり、自宅で予習をするときから、ミーティングのことを意識することが求められる。例えば、step 2 の言葉の理解では、予習のときに自分が知らない言葉はもちろん、なんとなく知っているがきちんと説明できない言葉を、辞書や専門書で調べる。そして、ミーティングのときに、自分のことばで説明したり、質問したりできるように準備する。また、予習の step 8 のリハーサルでは、実際に各ステップでどのように自分が話すか、対話をイメージした説明や質問を準備する。このような予習をすることで、課題文の理解とミーティングの準備ができる。

予習とミーティングは基本的に同じ活動内容だが、制限時間の有無に違いがある。予

習には制限時間はないが、ミーティングでは各ステップに制限時間が設けられている。決められた時間内に簡潔に自分の意見を述べ、対話を行うことで、効率的な話し合いを行うことができる。

このように、課題文の深い理解を目的として、予習とミーティングを同じ過程プランで行う協同学習の技法が LTD である。

3. LTD の実践

日本では安永を中心に大学の初年次教育やゼミ教育等で LTD が導入され、学習効果が見られることが多数報告されている（安永 2005、安田 2008、等）。また近年は、LTD を元にしてディベート等へ発展させていく「LTD 基盤型授業モデル」が安永によって提唱されている（安永 2017）。LTD 基盤型授業モデルとは、授業に特定の学習技法を単独で導入するのではなく、目的の異なる複数の技法を体系的かつ重層的に導入・活用する授業モデルである。LTD based PBL（長田・安永 2017）もその一つである。

日本語教育においては協同学習の考えや手法は導入されているものの、LTD はほとんど用いられておらず、予習とミーティング（話し合い）の双方を用いて LTD を行っているのは森山（2015、2016）のみである。また、LTD 基盤型授業モデルを導入している日本語教育の実践は、阿部（2016）、阿部・藤原（2017）のみである。

4. 授業概要

本学の総合政策学部の日本語科目は、日本語能力試験 N1 合格相当の学部留学生を対象とした必修科目であり、日本語科目全体として「大学におけるアカデミックな活動において、日本人学生と同程度にこなしていける日本語能力・コミュニケーション能力・論理的思考力を習得する」ことを目的としている。

日本語Ⅰ～Ⅳは日本語教員、日本語Ⅴは新聞制作と雑誌制作の実務家教員が担当する。日本語Ⅰ～Ⅳは春／秋学期にそれぞれ 90 分×週 2 コマ（「話す・聞く」1 コマ、「読む・書く」1 コマ）の授業が行われ、1 クラスを各内容別に 2 名の教員が担当する。日本語Ⅴは 90 分連続 2 コマの授業で、新聞制作と雑誌制作のクラスに分かれて受講する。

表 2 総合政策学部日本語Ⅰ～Ⅴの内容

| 学年 | 1 年生 | | 2 年生 | | 3 年生 |
|-----|-------|-------|-------|-------|--------------------|
| 学期 | 春 | 秋 | 春 | 秋 | 春 |
| 科目名 | 日本語Ⅰ | 日本語Ⅱ | 日本語Ⅲ | 日本語Ⅳ | 日本語Ⅴ |
| 内容 | 話す・聞く | 話す・聞く | 話す・聞く | 話す・聞く | 新聞制作 or 雑誌制作 |
| | 読む・書く | 読む・書く | 読む・書く | 読む・書く | |

本稿では、2015 年度秋学期に総合政策学部で開講された「日本語Ⅱ（話す・聞く）」の全3クラス、計21名（中国12名、韓国9名）の初年次学部留学生を対象とした実践について報告する。発表者がチーフを務め（授業担当は1クラス）、全クラス同一シラバスで授業を実施した。具体的な目標は、①内容を知らない相手に対してわかりやすい発表ができるようになること、②レジュメ作成ができるようになることの2点である。

5. LTD を導入した口頭発表練習の方法

本実践では、口頭発表を1人2回実施し、口頭発表のために用いる新聞記事の読解・理解に、LTDを導入した。口頭発表では、朝日新聞に「わたしの視点」として掲載されている記事を読み、現状（何が問題となっているのか）、筆者の主張（問題解決のための提案）をまとめて説明し、最後に発表者の意見を述べる。レジュメを用いて発表し、レジュメには、現状や改善点の理解を助けるための関連資料（図表を必ず含む）を入れるよう指示した。

課題文として「私の視点」を選択したのは、大きく2つの理由がある。1つは、安永・須藤（2014）では、「学習者が LTD に慣れていない段階では、著者の主張が明確なほど、過程プランに沿った学習がスムーズに展開する」とされており、筆者の主張が明確に示されている「私の視点」記事は、LTD の課題文としても妥当であると考えたためである。もう1つは、社会問題が取り上げられているため、大学での今後の学びにおいても役立つ内容であると考えたためである。

表3に本実践の簡単なシラバスを示す。全14回の授業のうち13回を、LTDを導入した口頭発表練習にあてた。実際の発表練習に入る前に、全員で同じ課題文を読み、予習で使用する読解シート（資料1）の使い方、LTD（予習・ミーティング）の方法、レジュメ作成法を学んだ。読解シートは予習の助けとなるように作成したもので、LTDのステップに応じて記入できるようにしたものである。

表3 日本語Ⅱ（話す・聞く）シラバス

| 回 | 内容 |
|------|--|
| 1 | オリエンテーション、発表についての説明、 課題文（練習用）＋予習用読解シート配布 |
| 2 | LTD（予習・ミーティング）説明、レジュメ作成法 記事テーマ決定（1回目・2回目） |
| 3 | LTD ミーティング（1回目） |
| 4～7 | 1回目発表 |
| 8 | LTD ミーティング（2回目） |
| 9～12 | 2回目発表 |
| 13 | 口頭発表全体のふりかえり |
| 14 | 授業内試験 |

発表練習は表4の手順で行い、発表の準備段階の②③で LTD（予習とミーティング）を導入した。本実践で、口頭発表練習へ LTD を導入する主な目的は、①課題文をしっかり理解する、②事前準備の話し合いを活発にする、③発表準備につなげる、④教師以外の他者からの学びに気づく、の4点である。

表4 発表練習の手順

- | |
|---|
| <p>①授業内…7つのテーマから、発表したいテーマを選択する （1クラス7名で、各テーマを発表するのは1名） 記事は配布せず、テーマのみを提示する 予習用の読解シートを配布する</p> <p>②授業外…図書館で該当記事を検索する 記事を読み、読解シートに記入する【LTD：予習】</p> <p>③授業内…翌週、同じ記事を担当する学習者3名（各クラスから1名）で話し合う 【LTD：ミーティング】</p> <p>④授業外…各自がレジュメを作成して、発表準備をする</p> <p>⑤授業内…自分のクラスで発表する（発表者と教員以外は記事の内容を知らない） 質疑応答 フィードバック</p> |
|---|

予習用の読解シートは、本来の LTD では用いず、自分でノート等に予習を行う。本実践では A4 両面の読解シートを用いることで、予習状況を教員が確認しやすくするため、また、step ごとに記入することで予習しやすくするために作成した。また、それだけでなく、表4の手順③のミーティングや手順④のレジュメ作成時にも、参考にできると考えた。

LTD ではミーティング時に課題文の理解が間違っている、教員は介入しない。しかし、語学教育においては課題文の理解に対するフィードバックを行うことも重要である。そのため本実践では、ミーティング時には LTD の考え方に合わせてフィードバックは行わず、口頭発表の後に内容についてもフィードバックを行う方法をとった。

6. アンケート結果と分析

学期終了時に、受講生 21 名に口頭発表練習をふりかえるアンケートを配布し、16 名分を回収した。選択式のアンケートに対してはすべてその理由を尋ねる自由記述欄を設けた。

まず、LTD を導入した今回の口頭発表練習によって、①発表が上達したと思うか、②レジュメの書き方が身についたと思うかを尋ねた結果を表5、6に示す。

表5 発表の上達に関する意識

| | とても 上達した | 上達した | どちらとも いえない | あまり上達 しなかった | 全然上達 しなかった |
|-------|-------------|------|---------------|----------------|---------------|
| 発表の仕方 | 1 | 11 | 4 | 0 | 0 |

表6 レジュメの書き方に関する意識

| | とても 身についた | 身についた | どちらとも いえない | あまり身に つかなかった | 全然身に つかなかった |
|----------|--------------|-------|---------------|-----------------|----------------|
| レジュメの書き方 | 4 | 11 | 1 | 0 | 0 |

表5から16名中12名が上達したと答えており、学習者の多くが効果を感じていた。「発表のやり方は発表するとともに、上手になった。きいているの人の表情や反映から、自分の不足がわかるようになった（原文ママ）」という意見から、聞き手の反応を見ながら自分の発表に対して自己フィードバックを持てるようになった学習者もいたことがわかる。また、「どちらともいえない」と回答した学習者のうち2名は「わかりやすくはなすことはできますが、みんなを見ながらはなすことはまだまだ、れんしゅうが必要だと思います（原文ママ）」「春学期と比べるとましですが、まだ足りないと思います」と述べており、不足点を感じているため「どちらともいえない」を選択しているが、上達したと感じていた。

レジュメの書き方についても、16名中15名が身についたと答えており、ほとんどの学習者が発表練習を役に立ったと感じていた。自由記述を見ると、「前、自分にとっては、レジュメの書き方が下手なものだが、「私の視点」発表の練習を通して、まわりの友達からのレジュメを見ながら、レジュメの書き方をしっかり身につけるようになりました（原文ママ）」「発表の時だけではなく、皆と二、三回練習したから」という意見もあり、他の学習者からもレジュメの書き方を学んでいたことがわかった。

さらに、「私の視点」からの発表練習を通し、自分のゼミの発表プレゼンする時の発表の仕方にも非常に上達し、役に立ったと思います（原文ママ）」という意見もあり、本実践が他の授業にもいい影響を与えていたことがわかった。

次に、LTDの予習とミーティングが、課題文の内容理解と発表準備に役立ったかどうかをまとめた結果を表7に示す。具体的には、①予習で使用した読解シートが課題文の内容理解に役立ったか、②予習で使用した読解シートが発表準備に役立ったか、③ミーティングが課題文の内容理解に役立ったか、④ミーティングが発表準備に役立ったかを尋ねた。

表7 予習とミーティングに関する意識

| | とても役に 立った | 役に立った | どちらとも いえない | あまり役に 立たず | 全然役に 立たず | 無回答 |
|-----------------|--------------|-------|---------------|--------------|-------------|-----|
| 予習→ 内容理解 | 3 | 11 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 予習→ 発表準備 | 13 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| ミーティング→ 内容理解 | 4 | 10 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| ミーティング→ 発表準備 | 2 | 12 | 1 | 0 | 1 | 0 |

表7から、予習用の読解シートとミーティングの双方が、読解文の内容理解と発表準備に「とても役に立った／役に立った」と考えている学習者が多いことがわかる。

読解シートが内容理解に役立つと答えた学習者は、「読解シートを埋めながら、様々な問題を必ず考えなければならぬので、内容をよく理解するようになりました」や「読解シートを予習する時には、単に予習だけでなく、今の日本どんなことを注目しているのか、分からない単語が出たら、調べて、勉強になるとか、記事の内容理解として非常に役に立つと思います」等と述べており、予習時に深く考えることにつながったとらえていた。

また、予習が発表準備に役立つと答えた学習者は、「読解シートを見て、レジュメを作るとき、順番を決めやすかった」「読解シートの内容を自分で、整理して理解するのは発表準備非常に役に立ち、有用になりました（原文ママ）」「記事の重要なイメージの範囲を示してくれました」と述べており、内容の整理とレジュメの構成を考える上で役立つと考えていた。

ミーティングが内容理解に役立つと答えた学習者は、「自分なりに整理したレジュメ（読解シートのこと）でも、必ず不足やミスがあります。話し合いで、他者の意見を聞いて、自分の意見を主張し、議論する中で、記事に対する理解が深まります（斜体は筆者追記）」「話し合いの時には、他の人からの記事はどう理解することにより、自分もう一回内容の理解をできると思い、役に立ちました（原文ママ）」と述べており、話し合いによって予習時の自分の理解を修正したり、より深く考えたりできると肯定的にとらえていた。

ミーティングが発表準備に役立つという意見には、「他の意見を参考しながら、どんな発表をすべきについて考えるので重要である（原文ママ）」「皆と話し合いの時には、自分の意見を交流し、お互いに自分発表する時の不足を直すことができました。発表する時にも、それを参考し、非常に役に立ちました（原文ママ）」等があり、話し合うことでさらに自分の考えを深めて発表準備につなげていることがわかる。

これらをまとめると、全項目で14名が「とても役に立った／役に立った」と答えており、学習者はLTDを発表準備に取り入れたことの効果を感じていると言えよう。

しかし、各項目2名、全体では3名の学習者が「どちらともいえない」や「あまり役に立たなかった／全然役に立たなかった」という否定的な回答を選択した。うち1名が「話し合いは、何んか、きちんと準備してきた人が準備不足な人に教えるだけの気がする（原文ママ）」と述べており、ミーティングに臨む態度の違いから、ミーティングに否定的な意見を持っていた。これは、ミーティングが内容理解に役立つと回答した学習者の「自分がわからない部分も、相手から説明してもらえるので、話し合い記事の内容理解にとっても役に立ったと思いました」という意見と関連する。しっかり予習をせずに「説明してもらえる」という態度でミーティングに臨んだのであれば、真面目に予習をしてきた学習者は話し合いで得るものが少ないと感じ、不満を抱くことにつながる。参加者全員が理解度に差はあったとしても、予習にもミーティングにも真摯に取り組んでいるという姿勢を見せることが肝要であろう。予習やミーティングへの取り組みが重要であることを教員が学習者に伝えることももちろんだが、予習状況やミーティングへの貢献度を記入する記録シート¹の導入等で、学習者が自分やグループメンバーの取り組みについても意識できるような工夫が必要だと思われる。

最後に、発表準備の方法に対する好みをまとめたものを表8に示す。「LTD」とは本稿で対象とした実践における準備方法、「各自の予習と教員の事前チェック」とは春学期に実施した他の口頭発表練習での準備方法である。

表8 発表準備の方法の好み

| | LTD | 各自の予習と 教員の事前チェック | その他 |
|-------|-----|---------------------|-----|
| 好みの方法 | 15 | 0 | 1 |

春学期の日本語クラスを履修しておらず「その他」と回答した1名を除くと、残る15名全員がLTDによる発表準備を選択した。

自由記述を見ると、「先生から直接に指摘お受けすることもいいが、他の意見の法で感じることを方が重要と思われる（原文ママ）」「他の生徒との話し合いがあって、秋学期の方法がよかったです」「LUNA²にアップロードして、先生がコメントするのがいいですが、うちで読解シートを書いて、グループで話し合いをすることで、お互いに自分の発表の準備の不足が分かります」「みんなで話し合ったほうが感想が共有できる」等の意見があり、特にミーティング（話し合い）を重視していることがわかる。

このことから、協働による学びを実感しており、LTD導入の目的である「教師以外の他者からの学びに気づく」ことができていたと言えよう。

¹ 安永・須藤（2014）の記録シートが役立つと思われる。

² LUNAとは、教材のダウンロードや課題のアップロードができる本学のポータルサイトのこと。

以上をまとめると、授業の具体的な目標である、①内容を知らない相手に対してわかりやすい発表ができるようになること、②レジュメ作成ができるようになるという2点は、表5・6からある程度達成されたと言える。また、口頭発表練習へLTDを導入した主な目的である、①課題文をしっかり理解する、②事前準備の話し合いを活発にする、③発表準備につなげる、④教師以外の他者からの学びに気づくという4つのうち、①③は表7から、④は表8から効果があったことがわかる。②の話し合いを活発にするについては、アンケートの質問項目としていないため学習者の意見は不明だが、筆者や他クラスの担当教員の所感では、以前実施していたグループワークよりも話し合いが活発になった。つまり、LTDを口頭発表練習準備に取り入れるという新しい試みは、授業の目標とLTD導入の目的において一定の効果が得られたと言ってよいだろう。

7. まとめと今後の課題

本稿では、学習者へのアンケート結果の分析から、口頭発表練習へのLTD話し合い学習法導入には

- (1) 口頭発表能力の向上
- (2) レジュメ作成能力の向上
- (3) 課題文の深い理解
- (4) 発表準備の助けになること
- (5) 教師以外の他者からの学びへの気づき

という5つの効果があったことを明らかにした。このことから、LTDを体験した初年次学部留学生自身が、LTDを効果的であると感じたことがわかる。

本実践は口頭発表練習とLTDを組み合わせたLTD基盤型学習モデルの1つである。安永・須藤(2014)によると、LTDは予習が「個人思考」に、ミーティングが「集団思考」にあたるという。これまで行われてきた口頭発表も同様に考えれば、個人での発表準備は「個人思考」にあたり、クラス内での発表と質疑応答は「集団思考」にあたるといえよう。本実践では、LTDの「個人思考→集団思考」と口頭発表の「個人思考→集団思考」とが合わさり、「個人思考→集団思考→個人思考→集団思考」という構成となった。LTDと口頭発表のどちらかを単独で実施するより、さらに思考を深めることにつながると考えられる。この点からも、LTD基盤型学習モデルとして、口頭発表練習でLTDを導入することの意義は十分あると考えられる。

一方、ミーティングによって課題文の理解が深まったものの、収集した資料をレジュメにまとめることがうまくできない学習者も見られた。レジュメの準備にも、個人思考だけではなく集団思考を取り入れる工夫³をすることで、授業方法の改善を図りたい。

³ 口頭発表のための新聞記事の理解にLTDを導入するだけでなく、発表準備(レジュメ作成)と口頭発表もグループで行うことで、さらに思考を深めることにつながるのではないかと考えている。

参考文献

- 阿部美恵子（2016）「新聞記事を用いた口頭発表練習への LTD 話し合い学習法導入の試み—初年次学部留学生の日本語授業での実践—」『初年次教育学会第 9 回大会発表要旨集』134-135
- 阿部美恵子・藤原由紀子（2017）「LTD 話し合い学習法を通じたスチューデント・アシスタント (SA) の成長に関する考察」『日本協同教育学会第 14 回大会要旨集録』28-29
- 長田敬五・安永悟（2017）「LTD based PBL の効果」『日本協同教育学会第 14 回大会要旨集録』30-31
- 下瀬川慧子（1994）「学部留学生に対する話し方教育の枠組み」『東海大学留学生センター30 周年記念論集』149-172、東海大学留学生センター
- 森山仁美（2015）「「LTD 話し合い学習法」にもとづく授業実践—上級日本語学習者を対象に」『日本語教育方法研究会誌』22(1)、80-81、日本語教育方法研究会
- 森山仁美（2016）「上級日本語学習者への「LTD 話し合い学習法」の適用—新聞記事を利用した読解授業—」『日本語教育方法研究会誌』23(1)、18-19、日本語教育方法研究会
- 安田利恵(2008)「LTD 話し合い学習法の実践報告と考察：学ぶ楽しさへの導入という利点」『嘉悦大学研究論集』51(1)、117-143
- 安永悟(2005)「教育実践 LTD 話し合い学習法を中心とした授業の展開」『大学と教育』(39)、4-18
- 安永悟(2017)「活動性を高める授業づくり：LTD 基盤型授業モデルの提案」『看護教育』58(1)、34-40、医学書院

| | |
|--|---|
| クラス () 学籍番号 () 氏名 () | <h3 style="text-align: center; margin-top: 0;">読解シート</h3> <hr/> <p>記事読解</p> <p>ステップ1：読む 全体で何が大切かを考えながら読みましょう。</p> <p>ステップ2：ことば わからないことばや気になったことばを調べて、裏面の「ことば」欄に書きましょう。 知っていることばでも、自分の理解を深めるために、気になることばは調べましょう。</p> <p>ステップ3：内容（重要部分）の理解 ①テーマ 「 」</p> <p>②問題 キーワード： 自分のことばで：</p> <p>③筆者の主張 キーワード： 自分のことばで：</p> <p>ステップ4：内容（関連部分）の理解 ①問題部分 キーワード： 自分のことばで：</p> <p>②筆者の主張の推測（理由） キーワード： 自分のことばで：</p> |
|--|---|

| | |
|--|--|
| ステップ5：判断との関連づけ…自分とは連絡関係のないもの (すでに知っていること、もっと知りたいと思うことを書きましょう。情報源も書きましょう。) ステップ6：自己との関連づけ…自分の経験、これからの自分 | <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> |
|--|--|

| | |
|--------------------------------|--|
| 自分の考え ステップ7：主張の評価…自分の意見 | <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> |
|--------------------------------|--|

| | |
|------------------|--|
| ステップ8：話し合いのふりかえり | <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> |
|------------------|--|